

授業科目 評価学演習 (4 日常生活活動)

【担当教員名】 小林 暈作	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60 (内15:日常生活活動)

【<概要>又は<一般目標:GIO>】

前期で学習した日常生活活動(ADL)の知識を基に、動作方法、介助方法、機器・用具の使い方を体験し習得する。また、表示された事例についてADLプログラムを立案する。

【<学習目標>又は<行動目標:SBO>】

1. ADLの聴取法を習得する。
2. 起居動作の指導方法を習得する。
3. 歩行、階段昇降、歩行補助具の使い方を習得する。
4. 移乗動作介助法を習得する。
5. 車いす操作法、介助法を習得する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADL聴取の実際 : 患者役とPT役で相互に聞き取りを行う。ポジショニング	1・2	小林
2	寝返り、起座 : 寝返り、片肘支持、起座(片麻痺、脊髄損傷)、ギャッジベッド座位	2	小林
3	臥位移動、床上移動 : 臥位移動(左右・頭足方向)、いざり、四這位など	2	小林
4	起立、歩行 : 起立(椅子から、床から)、立位保持、傾斜台立位	3	小林
5	杖歩行、階段昇降 : 杖歩行、歩行様式、階段昇降様式(1本杖、松葉杖など)	3	小林
6	移乗動作 : 移乗動作の介助	4	小林
7	車いす操作・介助 : 車いす操作、車いす介助、車いすりフト	5	小林
	ポジショニング ギャッジ座位・傾斜台立位		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	日常生活活動学・生活環境学(第2版)	鶴見隆正編	医学書院	2005
参考書	日常生活活動(動作)―評価と訓練の実際―	土田弘吉・他編	医歯薬出版	1992年
	日常生活活動(ADL)	橋本 隆・他編	神陵文庫	1998年
その他の資料	授業毎に資料配付			

【評価方法】

実技試験、期末試験(筆記)
その他

【履修上の留意点】

毎回、実技できる服装で出席すること。